

いつも目を覚ましていなさい

マタイ 24章 37-44 節

人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。

説教

ぽかぽか天気にさそわれて縁側でのんびりしていました。わたしがおやつを食べ始めると軒先で寝そべっていた飼い犬がいつのまにか隣にきていたので、せんべいを分け合ってポリポリかじりながら見るともなくテレビを見ていました。その時、ふと幸せだなあと感じて自分が自分にびっくりしました。幸せとは「自己一致」である、という定義があるそうです。そんなかたいこと言わずに「あー、今日も一日よかったな」と思えることが幸せ、と読み替えるとずいぶんとわかりやすくなります。

1)人の子の到来

人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。(マタイ 24:37)

人の子とはイエス・キリストのこと、来るとはキリスト再臨をいっています。ノアの時とはノアの洪水をさし、終末、この世が終わる時をいっています。

それはノアにとっては救いのときであります、ほかの人々にとっては裁きのときでもあります。「救い」はめでたいことですが、「裁き」とは縁起でもない話、あまりにもおっかない話です。しかし、いじわるなことに教会は年の初めのメッセージを終わりの時、終末の日から始まめます。待降節第一主日、きょうのメッセージはいつ来るのか誰にもわからない終末にそなえて「目を覚ましていなさい」です。

2) ノアの時

洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。(マタイ 24:38-39)

マタイ福音書は洪水前と洪水後の様子を語ります。「食べたり飲んだり、めとったり嫁いだり」とは人々がふつうに暮らしていた様子をいっているのでしょう。そして人々は何も気がつかなかったといっています。

主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。(創世記 7:16b)

創世記によると箱舟の入り口は主の手で閉じられます。舟に乗れなかったノアの家族以外は洪水に襲われ滅びました。つまり、神の裁きにあったということです。

3) 目を覚ましていなさい

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。(マタイ 24:42)

「あなたがたには分からない」という点だけを強調する人がいます。「わからない」ここに付きこみ世の人をまどわす事件は歴史において繰り返されました。そのような人たちは、終末の到来する日時を予言します。これが当たったためしはないのですが、そのたびに多くのクリスチャン、世の人は動揺して来ました。聖書を素直に読めばすぐ分かることですが、主が聖書を通して私たちに呼びかけておられるのは、「目を覚ましていなさい」ということです。終末の日は誰かが予言することではありません。

4) 幸せってなんだ？

しかし「目を覚ましておけ」といわれても混乱します。終末のことを思うだけで怖くて眠れなくなった経験のある人も多いと思います。43節のたどえは泥棒を警戒するように「裁きの時を警戒してビクビクしながら生活する」ことを薦めているようにも読めます。でもそんなことではないはずで、

「あー、今日も一日よかったな」と思えることが幸せだとすると、いい日という気分の積み重ねがわたしたちにとって「幸せ」のひとつのかたちです。これではただの呑気暮らしのようですが、みかたを変えれば主の恵みにあふれた暮らしぶりともいえます。

「目を覚ます」生き方は警戒をおこたらない生き方ではなく、主の恵みを感じながら毎日を暮らす生き方であって欲しいと思います。恵みを感じるのが「目を覚ましている」ことです。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。聖なる共同の公会、† 聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

救いの光であるキリストを待ち望みながら祈りましょう。

・救いのときの訪れを待ち望むわたしたちを希望の光で照らし導いてください。主を迎えるために、ふさわしい準備ができますように。

・人々や国々の間に続く争いや対立に終焉（しゅうえん）をもたらしてください。相手を尊び愛する心をもって、まことの平和をともに目指していけますように。

・愛する人を失った人々に主の光を照らしてください。すべての与えられた命は永遠の救いに結ばれていることをこころの支えにすることができるよう。

・（いまあなたに必要な祈りがあれば追加して祈りましょう）

恵み深い神よ、あなたはみ子キリストによってすべての人に希望を示しておられます。待降節をとおして、救い主を待ち望むわたしたちの心が新たにされますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン